



# 広報 なかわだ

第 372号



「この人を見よ」(カラヴァッジョ)

2010 年 11 月号

中和田カトリック教会  
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1

Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 22 年 11 月 7 日

## 11 月の予定

|             |      |          |
|-------------|------|----------|
| 死者のためのミサ    | 11 月 | 2 日 (火)  |
| 七五三祝福ミサ     | 11 月 | 14 日 (日) |
| 初聖体ミサ       | 11 月 | 21 日 (日) |
| 子どもと共に捧げるミサ | 11 月 | 28 日 (日) |

## 死者の為に祈る月、11 月

主任司祭 小林 陽一



カトリック教会は、死者の為に祈りを捧げることを昔から大事にしておりました。紀元 407 年に帰天した聖ヨハネ・クリゾストモは、コリント人への第一の手紙の講話の中で、次のように述べております。「死者を助け、追悼を行いましょう。ヨブの息子達が父親の捧げたいけにえによって清められたのなら（ヨブ記 1 章 5 節）、私たちはなぜ死者の為に供え物が死者に何らかの慰めをもたらすことを疑うのでしょうか。ためらわずに亡くなった人々を助け、彼らのために祈りを捧げましょう」。

教会は、教会が成立した当初から、死者の記念を重んじ、死者の為に祈り、特にエウカリスチアのいけにえ（ご聖体の秘跡）を捧げておりました。それは、死者が清められて、神の至福直観に至るためです。

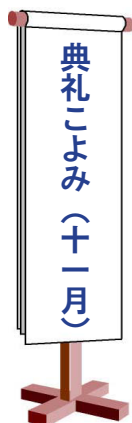
（「カトリック教会のカテキズム」P310；1032 番。カトリック中央協議会刊）

キリスト教の初期の時代から、教会は、深い敬愛の心をもって、死者の記念を尊んで参りました。「カトリック教会のカテキズム」(P290；958 番 死者との交わり)には、「『罪から解かれるよう死者の為に祈ることは、聖であり、健全な考えであるから』（マカバイ 12 章 45 節）、死者の為に祈願を捧げてきました」と記されております。「死者の為に私たちの祈りは、死者を助けるだけではなく、死者が私たちの為に執り成すのを有効にすることができるのです。」

（「カトリック教会のカテキズム」P290；958 番）

教会が古くから死者との交わりを大切にしてきたのは、キリストを信じる地上の信者、生涯を終え煉獄で清めを受けている信者、そして天の国に入った者、これらの全てがみな、一つの教会を構成しているからです。

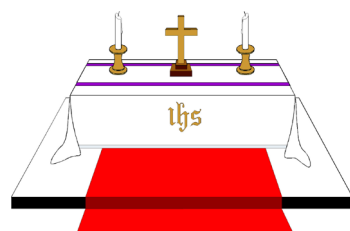
11 月 2 日（火）の「死者の日」には、故人となった人々の為に祈りましょう。11 月の「死者の月」には、親しくしていた亡くなった友人、恩人、洗礼を授けて頂いた司祭、結婚式の司式をして頂いた司祭、証人、仲人さん、両親、祖父母、知人のために、その靈魂の清めを願って、死者ミサを捧げ、祈りましょう。



| 日  | 曜 |           | ミサ・勉強会          | 備考               |
|----|---|-----------|-----------------|------------------|
| 2  | 火 | 死者の日      | 死者のためのミサ(10時)   |                  |
| 5  | 金 |           | 初金ミサ(10時)       |                  |
| 6  | 土 |           | 主日ミサ(18時)       | 掃除 1 G           |
| 7  | 日 | 年間第 32 主日 | 主日ミサ(9時)        | トゥー神父 中和田初ミサ&懇話会 |
| 13 | 土 |           | 主日ミサ(18時)       | 掃除 2 G、教会委員会(9時) |
| 14 | 日 | 年間第 33 主日 | 七五三祝福ミサ(9時)     |                  |
| 20 | 土 |           |                 | 掃除 3 G           |
| 21 | 日 | 王であるキリスト  | 初聖体ミサ(9時)       |                  |
| 27 | 土 |           |                 | 掃除 4 G           |
| 28 | 日 | 待降節第 1 主日 | 子どもと共に捧げるミサ(9時) |                  |

## 敬老祝福ミサ&祝賀会（9月26日）

晴天に恵まれた9月26日、恒例の敬老祝福ミサが捧げられ、終了後は祝賀会を催して、子どもたちのアトラクションなど楽しいひと時を過ごしました。皆様、いつまでもお健やかに過ごされますように



## 第43回横浜司教区一粒会大会・参加傍聴記

竹内 広治

今年度の一粒会大会は、「絶えず祈りなさい」をテーマに、神奈川第一地区のみなさんのお骨折りにより、秋分の日の9月23日に、鶴見区の聖ヨゼフ学園で開催されました。

本大会のテーマ「絶えず祈りなさい」は、朝から夜まで祈りのことばを口にするという意味ではありません。私たちが「絶えず祈る」とき、絶えず主の愛を切望し、絶えず呼吸しています。祈る時、私たちは「その呼吸」をいただきます。神の霊は「息吹」、「風」と聖書では表現されています。聖霊をいただくことを常に望む限り、人は「絶えず祈る」ことになります。私たちの身体は呼吸がなければ死にたえます。祈りは心の呼吸です。

（一粒会神奈川第一地区指導司教（エドワードB神父）の解説より）

はじめに、第43回横浜教区一粒会大会の開催ご案内の表紙に、エドワード神父様の大会テーマについての解説が、掲載されておりましたので転載させていただきました。

私はこの一文に触れて何だか気持ちがホットいたしました。どうぞ皆様肩の力を抜いて続けてお読みください。

大会当日は久しぶりの雨となりました。前の日まで記録破りの猛暑が続いていたとは信じられない程、気温が下がり珍しい外出支度も戸惑いまごつきの連続です。

会場の聖ヨゼフ学園を訪れることは始めてですので早めに家をでました。JR鶴見駅からバス利用とのこと、一見、一粒会員らしき人の群れに紛れ込んでバスに乗り、やっぱり顔馴染みの人ばかりでしたので、懐かしいやら嬉しいやら、いつからか意地悪く雨脚が強くなりました。バス停から閑静な住宅街を少し歩くと、ヨゼフ学園入り口、瀟灑な感覚の校舎に十字架が如何にも似合いそうで、納得、納得。

大会担当の方々にあれこれお世話になり、パンフレット片手にいよいよ場内へ。見渡せばお席は満杯の有様、悪天候にも拘らずの大勢の参加者を見ると、役員ならずとも心が弾み、嬉しくなってしまう。・・・さあー主が呼んでいられます。急ぎましょう。

10時30分、全員起立して始めの祈り「ガリラヤの風かおる丘で」の聖歌を心を合わせて歌い、（聞かせてください、みことばを）を願いました。続いて一粒会本部委員長梶田氏及び前述の、エドワードB神父様の開会の挨拶を受け、プログラムは進んで参ります。

10時45分、日本カトリック神学院大山悟神父様の講話が始まりました。私にとって一番注目すべき目玉商品(?)の定番組だったのですが、期待したとおりの内容でした。

講師が準備されたレジュメに従って、要点をメモる筈でしたが、遂に追いつかずペンは握ったそのままでピクとも動かず、眠らず動かずで憧れの時間は、ただただ耳をそばたてるのみで過ぎていきました。

大山神父様の述べられた数々の名言は、多くの人たちに自分の口から伝えたいと思いましたが、いつもの通りの方法で行いたいと考えます。間もなくと申してもまだまだ先のことですが、毎年11月頃「一粒会だより」が大会記念号として発行されます。同じ頃「横浜教区報」も追いかけて発行されましょう。皆様には是非お手にとって読んで頂きたいと思います。今年の大会でお話になったなかで、とりわけ記憶に残る珠玉の言葉はこれでした。（自己の信仰の輝きを取り戻す、キリストと共に呼吸し共に生きる自信を持つ）

12時20分 昼食休憩・・・毎年の光景です。ピクニックか同窓会か、楽しそう。

13時30分 ミサ 梅村司教および参加司祭による共同司式ミサ大会に参加された大勢の信徒の、信仰と願望がかもしだす立派なミサが捧げられましたこのような機会はそう簡単に得られることではありません。この感動と喜びはいつまでも忘れてはならないと思います。神に感謝

盛大なミサの終幕、横浜教区所属の金祝、銀祝、新司祭ならびに参加司祭の紹介が梅村昌弘司教によって、いつものように行われました。司教様にとってこの時間は知能テストと呼ばれ、恐怖の一時だそうですが一寸した失念も愛教でありまして、一番楽しまれた方は司教様ではないかしら・・・もっぱら楽屋雀がサワガマス。

時間も押し詰まりました。第43回横浜教区一粒会大会も間もなく終わります。一粒会総指導司教古川神父様はじめ、この日に備えてご苦労なされた、神奈川第一地区の役員方の代表の方の挨拶が続き、満場の拍手の鳴り響くうち終会が告げられました。

小雨がしきり降り止みません。でも皆さんは快い顔でお帰ります。帰りのバスの手配も手際よかったです。十分に満ち足りてルンルン気分が嬉しいです。

## 第5地区合同キャンプに参加して

初めての第5地区合同キャンプが、8月7日～9日（二泊三日）、あきる野教会にてトリ神父様のご指導で行われ、43名の子供達が参加しました。

初めて会う子供達がすぐ仲良くなれたのも、私たちの中にイエス様がおられるから。暑い三日間でしたが、みんな元気で、すばらしい笑顔がすてきでした。

花火、川遊び、キャンドルファイアなど楽しい思い出と、たくさんの友達ができたこと、またケガもなく無事に終わったことを神様に感謝いたします。（井上 昭男）



### 『楽しかった川遊び』

わたしは、さいしょ魚をつかまえてみたいと思いました。川で魚を見つけました。けれど、見つけた魚は5mmくらいでした。とうめいで、にげるのがはやいので、一匹もつかまえられませんでした。しかたなくあきらめて、こんどはでんきなまづをつかまえようと思いました。けれど、見つかりませんでした。しかたなく、また、ただの魚さがしをしました。すると、なんはんかわかりませんでしたが、リーダーが立っていました。こえをかけてみると、手のひらサイズの魚が目の前をとおりたらしいので、わたしはそこで魚が目の前をとおるのをまちました。しばらくすると、人さしゆびくらいの魚がとおりました。また3分くらいまっていると、こんどは魚のかぞくがとおりました。つかまえようとしたら、石がツルツルで、足をすべらしてしまいました。それで、ふくがビチョビチョになったので、きがえて、また川であそびました。けれど、魚は一ぴきもつかまえられませんでした。そこがショックでした。そのあと、川をわたって、すこしぬれました。それからかえりました。川でぬれてばっかりだなと思いました。

（2年さくらAチーム 本庄 華）

### 転入

## 教会からのお知らせ

10月14日付で、

くわはら えいいちろう  
桑原 栄一郎 様

が藤が丘教会より転入されました。D地区（泉区上飯田町）にお住まいです。

### 帰天

11月4日に、

ペトロ 松下 俊夫 様

が帰天されました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。



### 岩淵委員長の コラム



■ 10月31日、恒例のバザーが開催されました。台風の余波が懸念されましたが、当日は穏やかな天候に恵まれました。長い間のバザー開催に向けた取り組み、前日、当日早朝からの設営、調理、販売と多くの皆様のご尽力で、楽しく和やかなバザーとなりました。心から御礼申し上げます。

■ 委員会の改選時期になってまいりました。中和田教会の維持と発展は世代交代によって支えていかねばなりません。どうか若い方々も含め積極的に対応頂きたく、宜しくお願い申し上げます。

■ 今年も余す所二ヶ月になりましたが、バザー以降もトゥー神父様初ミサ、七五三、初聖体、コンプリ神父様の御講演、共同回心式、大掃除、そしてクリスマスと多くの行事が続きます。力を合わせて乗り切っていきましょう。

■ 女子パウロ会の図書の委託販売の試行を終了しました。皆様、御協力有り難うございました。今後は従来どおり、春、秋（バザー）二回の展示販売を継続して頂く予定です。

## 委員会だより

△10月10日(日)11名出席▽

### 小林神父のお話・課題提起

①聖母の月に入ったが、ミサ前のロザリオの祈りを有難う。10月バザーが滞りなく終わりますように。

②小林神父出張(年の黙想 10月18・22日) 緊急連絡先の周知など。

③地デジ対応TVの設置を願いたい

④藤沢教会トウ・神父の中和田初ミサは、11月7日の主日ミサに決定。

▼出迎え、接待等の対応をお願いする  
また、ミサ後懇親会の対応を願いたい  
中和田はベトナムの方々も多いので、盛り上げて楽しい企画にして欲しい

▼司祭叙階お祝いの寄書(色紙2枚)を皆さんで用意願いたい

⑤共同回心式は、12月5日の主日ミサ後に行なうこととし、古川神父に指導司祭をお願いした

▼講話で、古川神父にお話頂きたい  
テーマを典礼で準備願いたい

▼回心式終了後に昼食会を計画願いたい

⑥教会コピー機更改の件 ― 本件後述

⑦初聖体ミサと祝賀会は11月21日に行なう

⑧聖体奉仕者について(継続中の議論)

▼10月10日の説教では「病者に奉仕」について話したが、今度は集会祭儀について話したい

▼聖体奉仕者の必要性に関する検討は、もう少し時間が必要

⑨教会消防設備点検は9月21日に行い、異常なし。点検費用支払いへ

⑩七五三祝福ミサは11月14日に行なう

▼バザー(10月31日)準備進捗

▼C地区代表の武田(幸)さんより、別紙資料に基いて進捗状況説明

▼前日の準備は午前10時より開始  
当日の準備は午前8時より開始  
両日の予定は、電話連絡網で徹底  
当日は、名札着用を励行する  
各売り場に高齢者用椅子を設置、食堂

では三角巾、マスク、エプロン着用を励行

▼保健所届出は甲斐さんをお願いする

●「死者の月」呼びかけについて  
信徒より課題提起があった「信徒ではない遺族の方々」への呼びかけに

関し、調査の結果、中和田教会在籍中に亡くなられた信徒数は81名。

▼本件は、誤解を生む可能性があるもので画一的な対応は馴染まないが、他方、毎年個別に対応することも出来ない。

▼故に、小林神父様や提案信徒にも了解頂き、本件呼びかけについては見送ることとする。即ち、例年通りの対応とする(委員長)

▼教会コピー機の機種変更と運用(総務)

▼リコージャパン特別キャンペーンの機会に、新型機種への変更を行なった。  
・従来(白黒コピー機)から新機種(カラー複合機)へ

・コストは、従来は『リース料金+カウンタ料金+トナー代』であったが、新機は『リース料金+カウンタ料金』となつて、トナー代はカウンタ料金に含まれる。(コストアップなし)

・カウンタ料金(単価)も、従来に比べて安くなつており、全体としてコストダウンが期待出来る

▼新型機はカラー機であるが、従来通り白黒コピーを原則とし、カラーコピーについてはパスワード管理とする。(パスワード管理は総務担当)

▼現在、月々一千枚以上のコピー実績が続いているが、記録が無いためト

レスや分析が出来ない。そのため、以前行なっていた、コピー機使用の都度、枚数をノートに記録する方式を復活する。

●藤沢教会「合葬の園」見学会(10月11日)の案内、別紙説明(委員長)

●霊性センターせせらぎの「祈りの集い」の案内、別紙説明(委員長)

▼討議事項

●敬老ミサ反省事項(塗油の秘跡)

今回はミサの中で、希望する信徒席

まで司祭が行つて塗油を行なったが、いろいろ問題があることを認識した。

塗油は、応接間で行なう方向を考えたいので、典礼グループで検討して欲しい(小林神父)。

▼前掲のトウ・神父の初ミサ関連  
ベトナム語の朗読など典礼中心に検討すること。加えて、ミサ後トウ・神父様を囲んで懇談会を開催する

●3教会合同会議報告

9月18日に戸塚教会で開催されたが、3教会が連携を深めることに向けて、率直な意見交換が出来て、極めて有意義であった旨、岩淵委員長より報告。

●ホームレス支援について

シスター松本のお話を伺う機会を11月27日に持つ旨の提案が戸塚教会より有り。「証しグループ」主導で参加メンバーを調整する(持ち帰って検討)

●泉区民クリスマス

▼中和田は「従来有志参加」から「教会として参加」へと改めたが、具体的に何をすればよいのか纏めて提案頂きたい(委員長)

▼今月中に区民クリスマス関係者が集まつて纏める(宣教委員)

▼聖堂、オルガンなど教会施設などの外部の方の使用に関しては、規約があったのでは? (典礼委員)

●「教会名簿」の取り扱いについて  
結論として、7月11日付の「委員長試案」のとおりを実施する

●来年度教会委員改選の課題提起あり(委員長)

### 各グループ報告(除既出項目)

●宣教/教会学校

▼「泉区民クリスマス」：従来の経緯として、子どもたちも参加して良い思い出となっている。これからも積極的に参加・協力していきたい

▼第5地区湘南キリスト教セミナー  
は、来年6月11日(土)に鍛冶ヶ谷教会で開催、講師はイエズス孝女会の

シスター小野に決定。

▼要理学校リーダー研修会は、11月3日に二俣川教会で開催され、講師は豊島治神父。中和田からは神父井上武田(忍)の3氏が出席する

▼第5地区要理学校リーダー会は、11月7日に片瀬教会で開催。来年度のキャンプなど打合せ予定

●財務  
別紙で収支報告。9月度特記事項は、本部関係分担金などの本部納入

●典礼  
▼「死者のためのミサ」は11月2日10時より。各信徒の希望追悼ミサは、揭示一覧表に記入頂く

▼10月3日ミサ後に、「通夜式」のリハールを行なった。細かい点を修正してグループミーティングで意見を求める予定

●証し(福祉)  
お米の拠出など、活動状況報告

●総務  
9月19日ミサ後に消防避難訓練を実施、訓練用消火器を使って実習も行なったが、更なる改善点を検討する。

●ヨゼフ会  
ガエタノ・コンプリ神父の講演会を計画中。内容は、これから詰める。

●宿題事項(未審議事項の案作成)  
①信徒の意見の吸い上げ(総務)

②共同宣教司牧委員会の方向に沿った活動の見直し(典礼)(宣教)(証し)

③建設予算の長期的見直し/建設関係重要案件の優先度―建物を考える会

④ヨゼフ会の「幅」の拡大―ヨゼフ会

以上  
(次回は  
11月13日(土)  
9時より)

